

「募金活動について」

古谷 一之 理事

私はシーニックバイウエイの方をずっとやっていて五年目くらいです。けれども、初めのうちは何も疑問を感じなかったですね。この話が寄付金の方にもつながる話ですから嫌な話しの前につなげたいと思うのですけれど、何気なくフォーラムみたいなものがあるから来いということで行ったんです。どんと足を踏み入れたんですね。そこに入ったら当然、名前を書かされますよね。そしたらそこでメンバーだったんですね。それからスタートしてだんだんその人の性格にもよりますが、それで逃げればよかったんだけど、やっぱりちょっとはまってしまったんですね。そして、はまってしまっただけでずっと活動を続けてきて、昨年ちょっと飲みすぎましてね。ある人にいろんな方向性とか話されて、なんで、俺なんだと思ったわけです。会社名もわかっているとおり、そういう会社で特にiネットとか観光とか外部の旅行とかそういう感じでシフトしてきていますよね。「なんで俺なのよ？」と寄っていったらその時、その人は答えなかった。次の日、お互い二日酔いですがそれでも「古谷さん、昨日の答えはね、気づいたもん負けだよ」と言われた。確かにそういう感じもしますよね。いろんなことに気づいちゃった。iネットにも気づいちゃった。僕、気づいちゃったんです。皆さんもそういう感じで気づいちゃったから此処に居ると思うのですよ。そういう感じですね。この事業は5年間、僕もやっているとありますが運営資金とか何かというのが1番なんですね。最初は意気込みだけでいきますからお金なんてどうでもいって行っちゃうんだけど、やっぱり最後、最終的なこと考えたらそこにつまっちゃうんですね。

で、今回も寄付金のところに入るんですけど、やはりiネットの成功というか、多分ですよ、小川原さんが何を言おうが、今井さんが何頑張ろうが、木下君が何やろうが、いまいまこの地域にどれだけの経済メリットがあるとか、どれだけの効果、資産ていうのがどれだけ増えるかなんてのは、たぶん、目に見えたものは増えないと思うのですよ。いくら金集めて、いろんな活動したってそれが根付くまでにはやはり何年もかかりますしね。ただ僕は今までの活動もiネットの活動も通して思うんですがこうやって考えれば楽です。「次につなげる」って。

僕たちの次の世代、次の世代がたとば単純な話し、僕が死んで墓に入って墓を誰が守ってくれるのよ？って考えていけばですね。やっぱり自分の子供なり、身内なりがこの地域に戻ってくる環境を作っていかなければ駄目だ。そしたらですね、この地域にどんどんそういう方が戻ってきて活性化していくその未来の投資だと思えると思うのですよ。これから寄付の話とか色々皆様方にあるうかと思うのですけれど行ったら巡り合わせ、そしてお金を貰ったら、払ったら、もう気づいちゃった負けってことで次の世代につなげるような解釈で何とかその辺、ご協力をお願いできないかと思えます。今井さんがそれを言えといわれておりますけれど、本当に僕、そう思います。

それと行政との関わりですがけれども、これも色々何年か、1年ごと考えも変わってきます。最初、大嫌いだったのがね。横文字、それとコンサルの先生方も好きではなかった。なんか、地域に勝手なこと言って、なんか自分のプライドを傷つけられたような感じがして、だけど、それもそれもやっぱり違って、やはりこの地域はこの地域はってことない、僕たちはなかなか上手く言葉を、想いがあっても文章とかに色々な形で表現できないんですよ。それを的確に表現してくれる手法を持っているのがそういう方々の力だと思えます。ですから、僕たちの今の役目はそういう想いを伝えてくれる、表現してくれる方に

対してどれだけ率直に伝えれるかということだと思う。それと、どんどん時代は変わってきていますから行政も今までみたいな僕たちにただ、どんどんお金をだすわけにも行かなくて、やはり地域のことは、自分のことは自分でやるってのは考えてみたら昔から当たり前の話だったのではなかったかという気もしないでもない。その為に原資である寄付ということがこの事業の失敗か成功かと前面にくると思いますのでなんとか、行政の力と、コンサルの力と地元の熱意と地元のお金、そういうことでご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。私も微力ですが精一杯頑張っていきたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。